

# HappyRaft 飛び込みマニュアル

## 1. 基本ルール

- 高さ5m以上からは飛び込まない。例：
  - 小歩危峡 Lサイズ岩
  - 大歩危峡ゴール手前右岸
  - 大歩危峡ゴール手前左岸(高い方)
- シーズン初め・増水後は必ず水深と障害物のチェックを行う。
- ケガ人発生時のイーバックポイントを事前に確認しておく。

## 2. 飛び込み前の注意事項(事前説明)

- 各ボートでガイドが説明を行い、飛び込みは自由参加であることを明確に伝える。
- 怖がっている参加者を無理に飛ばせない(仲間内のプレッシャーにも注意)。
- ボートから降りる際は、岩場・足場の安全を確認し、参加者にも注意喚起する。

## 3. 飛び込み時の安全管理

### 3-1. 飛び込みポイントの確認

- 飛び込む場所の真下に岩・流木などの障害物がないか確認する。
- 浅くなっていないか必ずチェックする。

### 3-2. 飛び込み姿勢の指導

- 正しい姿勢、手の位置を説明する。
- 鼻をつまむ際のリスク(耳抜き・水圧など)を説明する。
- 靴の裏に砂利がついていると滑りやすいため注意を促す。
- 助走は禁止。

### 3-3. 怖がっている参加者への対応

- 無理に飛ばせない。
- 状況を見てやめる方向へ誘導する。

## 4. 飛び込んだ後のスイマー対応

- スイマーを下流に流さないよう、声かけ・パドル・スローロープを使って確実にレスキューする。
- スイマーがボートの下に入らないよう配慮する(特に小さな子ども)。

## 5. 飛び込みをあきらめた参加者への対応(事後)

- あきらめた人のケアを丁寧に行う。
- 安全に下へ降ろす、歩いて移動する、低い場所からの飛び込みなど、その人に合った選択肢を提示し同行する。
- 最後まで安全にボートへ戻れるよう、誘導と確認を徹底する。